

2015/4/17

週刊東洋経済と講談社「インベスターZ」の コラボレーションが実現！

株式会社東洋経済新報社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山縣裕一郎）は、「週刊東洋経済」2015年4月25日号（4月20日発売）の特集「買っていい株 ダメな株」で、「週刊モーニング」（講談社）で人気連載中の投資漫画「インベスターZ」と連携した誌面作りを行いました。

同特集では「インベスターZで学ぶ投資心得」と題したパートを設け、主人公の財前孝史が株式投資のコツを学んでいくシーンなどを掲載。各場面やセリフを追いながら、投資初心者から上級者まで参考になる投資の心得や教訓を詳しく解説。主人公の財前君は表紙にも登場しています。また、作者・三田紀房氏にインタビューし、この作品に込める思いを語ってもらいました。

今回の特集は、株式市場の先行きを見通したり、有望株の見つけ方など実践で役立つ内容を盛り込んだほか、「インベスターZ」と連携するなど、これから株式投資に本格的にチャレンジしようと考えている人にも参考にもらえる誌面作りに努めました。

【インベスターZとは】

2013年6月に『週刊モーニング』（講談社）で連載を開始し、単行本は8巻まで刊行中。作者は『ドラゴン桜』を手掛けた三田紀房氏。

ストーリーは、創立130年の中高一貫進学校・道塾学園にトップで合格した中学1年生の財前孝史が、各学年成績トップのみが参加する秘密の「投資部」に入部するところから始まる。部員の使命は3000億円を投資で運用し、年8%以上の利回りを生み出すこと。そのため創立以来、最高水準の教育設備を誇る道塾学園は学費が無料という設定。

財前家と学園創設家との因縁や、日本経済の歴史を絡めながら、投資を通じて主人公が成長していく姿を描いている。連載では現在、FXに挑戦中。



© 三田紀房 / コルク

『週刊東洋経済 4月25日号』